

この街が好きだから

武蔵野 スケッチ 物語 96

武蔵野市

水道部付近にて

絵と文 大須賀一雄

見慣れた風景も、
絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが
春夏秋冬で切り取って描きます。



4〜5年前に、妻と一緒に英
国南部の保存鉄道の一つを訪れ
た時のこと。蒸気機関車のそば
にお年寄りと男の子がいて、毎
日のように機関車を見に来てい
る様子に、親しみを感じて話し
かけてみた。聞けば毎日のよう
にそこに来て、2〜3駅しかな
い区間を二人で何度も乗り降り
しているとのこと。日本にもこ
のような保存鉄道はいくつかあ
るのを知っているが、この二人
の様子を見て、うれしさが込み
上げてきた。

私もかつては、蒸気機関車の
乗務員の仕事をしていたことが
ある。私の経験を話したところ、
二人からいろいろと質問され、
いつとき楽しい時間を過ごすこ
とができた。なんだかかけがえ
のない時間が持てたような気が
して、うれしかった。

今では、どこへ行くにも電車
だが、このような保存鉄道は昔
の様子を再見させてくれるもの
であり、ぜひ日本でもこのよう
な保存鉄道を大事に守ってい
てほしいと思っている。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。